

2020年3月期 決算説明会

タカラバイオ株式会社
2020年5月18日

本日の内容

- 20/03期通期業績
- 長期経営構想2025
- 中期経営計画2022
- 21/03期通期業績予想

20/03期連結業績

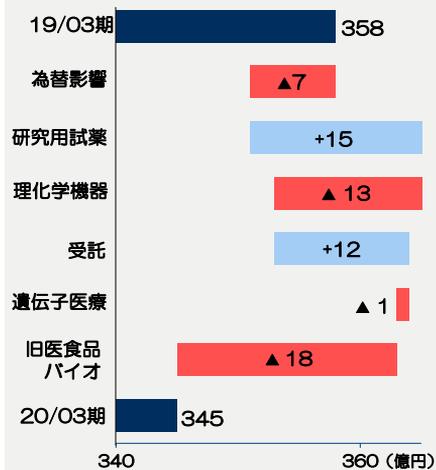
(百万円)	20/03 通期実績	前期比		売上高 研究用試薬、受託サービス が好調だったが、 旧医食品バイオ事業の譲渡 などにより減収
		増減	増減率	
売上高	34,565	▲ 1,275	▲ 3.6%	売上原価・総利益 製品構成等の変化により 原価率改善し、 売上総利益が増加
売上原価	13,459	▲ 1,696	▲ 11.2%	
売上総利益	21,105	420	+2.0%	販管費及び一般管理費 遺伝子治療の臨床開発費の 提携先企業への移管が進み、 研究開発費が減少
販売費及び 一般管理費	14,830	▲ 390	▲ 2.6%	
営業利益	6,274	+811	+14.8%	営業利益 過去最高益（11期連続）
経常利益	6,347	+682	+12.1%	
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,819	+162	+4.4%	

3



20/03期連結業績 売上高

(百万円)	20/03期 実績	前期比 増減率
バイオ産業支援	32,269	+2.2%
研究用試薬	24,434	+3.5%
理化学機器	1,242	▲ 51.7%
受託サービス	6,186	+24.9%
遺伝子医療	2,295	▲ 6.0%
旧医食品バイオ	0	-
売上高合計	34,565	▲ 3.6%



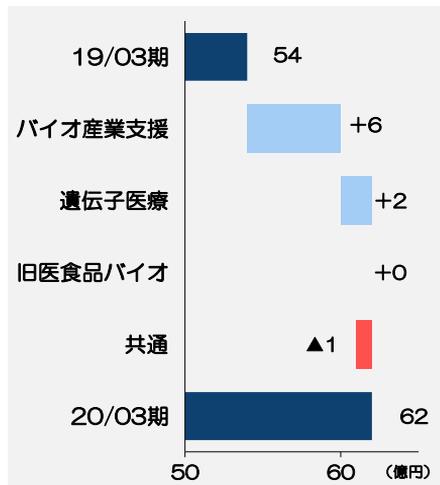
(増収要因を+、減収要因を▲で表示)

4



20/03期連結業績 営業利益

(百万円)	20/03期 実績	前期比 増減率
バイオ産業支援	7,748	+9.1%
遺伝子医療	780	+54.1%
旧医食品バイオ	0	-
共通	▲ 2,254	-
合計	6,274	+14.8%

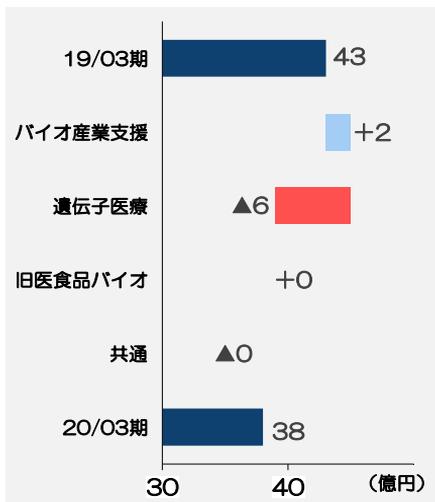
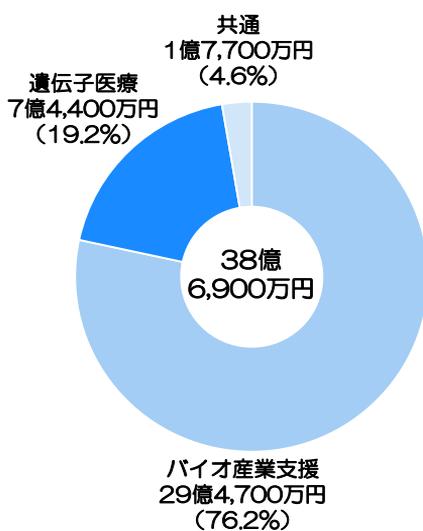


(増益要因を+、減益要因を▲で表示)

5



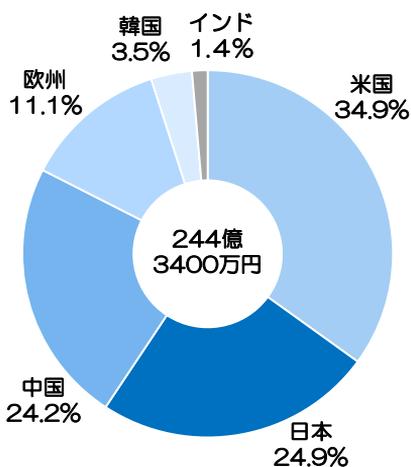
20/03期連結業績 研究開発費



6



研究用試薬の外部売上高（連結） 海外売上高比率：75%



(百万円)	20/03期 実績	前期比		
		増減	増減 除為替影響	増減率 除為替影響
米国	8,532	302	413	+5.0%
日本	6,076	361	361	+6.3%
中国	5,907	437	789	+14.4%
欧州	2,703	▲ 245	▲ 60	▲ 2.1%
韓国	865	▲ 52	10	+1.1%
インド	349	29	45	+14.2%

※海外子会社は1月-12月決算のため、新型コロナウイルス感染症関連の影響を受けていません

7



本日の内容

- 20/03期通期業績
- 長期経営構想2025
- 中期経営計画2022
- 21/03期通期業績予想

8



中期経営計画2019の振り返り ①

売上高は計画未達も、営業利益は当初計画を大きく上回った

中計2019の実績

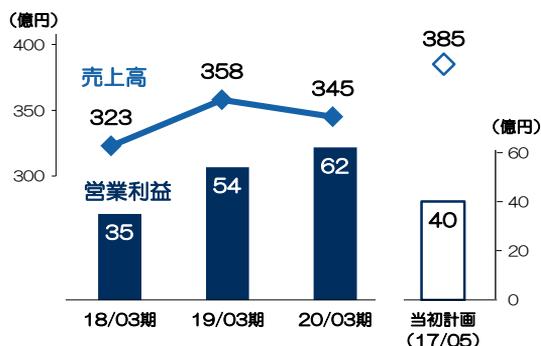
(億円)	実績 (20/03)	当初計画 (17/05公表)
売上高	345	385
営業利益	62	40

売上高

2018年の医食品バイオ事業の譲渡等により計画未達。

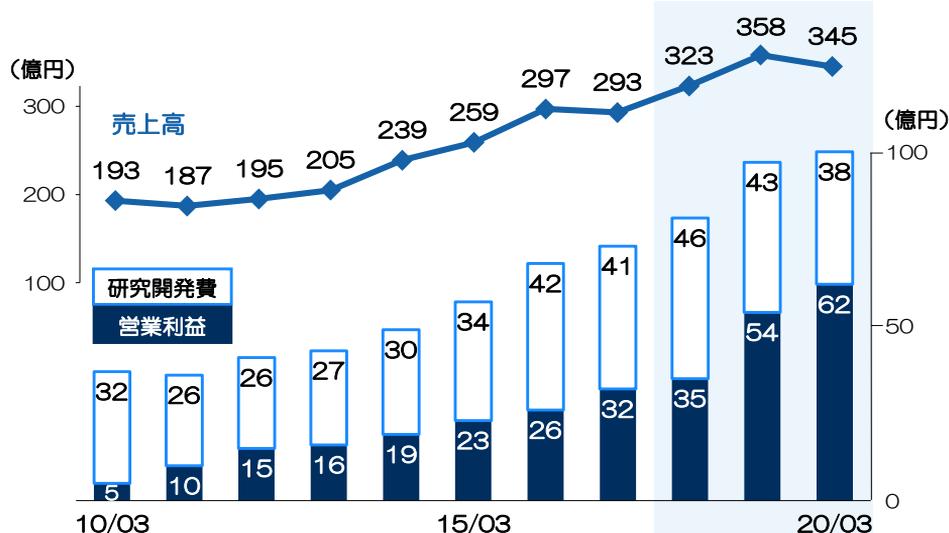
営業利益

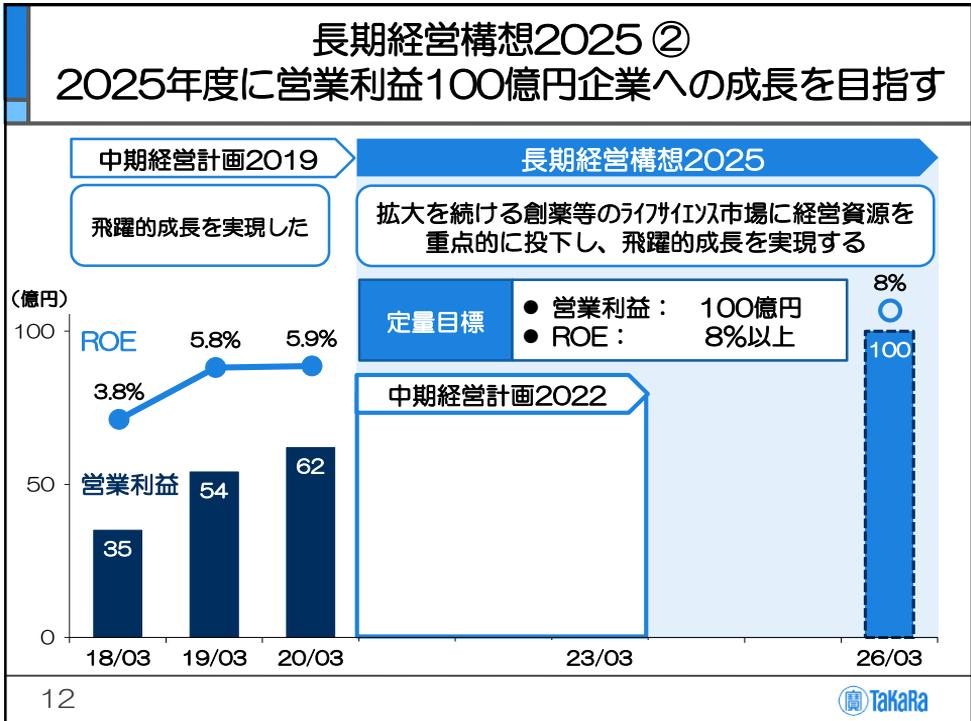
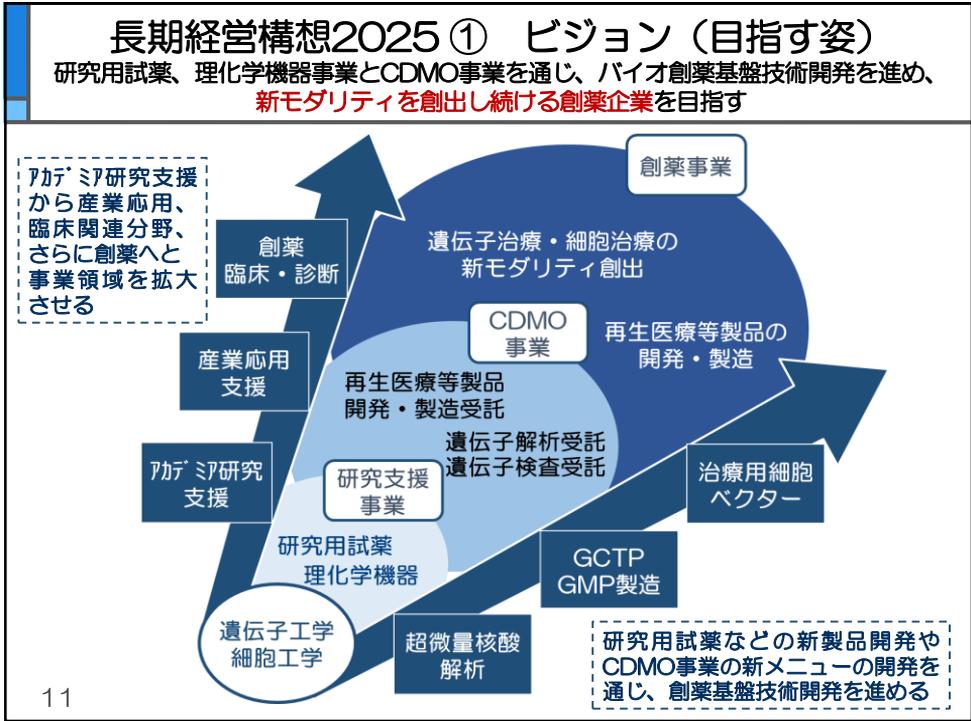
海外の研究用試薬伸長や国内のCDMO事業拡大、遺伝子医療事業における対価料収入等により、当初計画を大きく上回った。



中期経営計画2019の振り返り ②

研究開発費を戦略的に投下しながら、11期連続の増益を達成





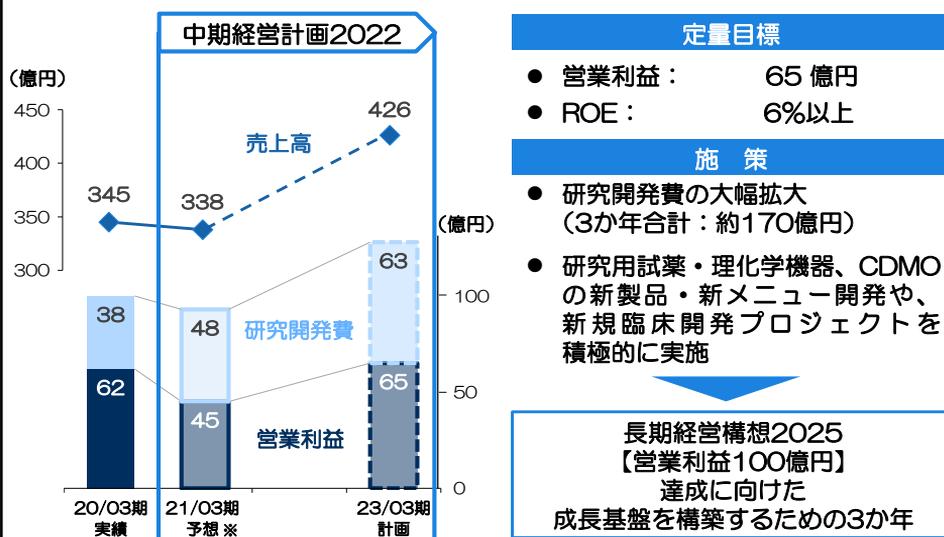
本日の内容

- 20/03期通期業績
- 長期経営構想2025
- 中期経営計画2022
- 21/03期通期業績予想

13



中期経営計画2022 ① 研究開発費の積極的投下により、成長基盤を構築



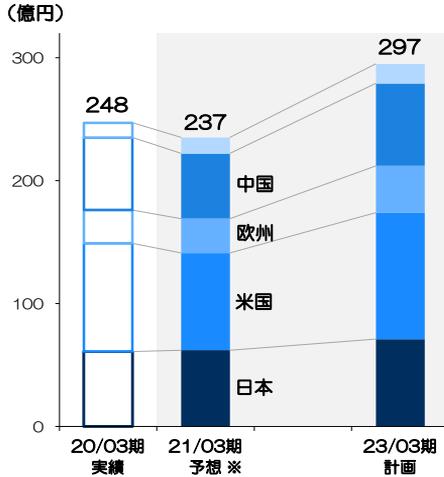
14

※ 21/03期業績予想は、新型コロナウイルス感染症関連によるマイナス影響を考慮



中期経営計画2022 ② 研究用試薬事業の施策 その1 グローバルで多極的な研究開発・製造体制の整備

研究用試薬 売上計画



施策

研究開発

- 日・米・中 3拠点での、技術領域に応じた開発分担の最適化、シナジーの最大化をはかる
- 米国での新拠点設置拡大により、研究開発基盤のさらなる強化をはかる。2021年7月移転完了予定、設備投資 約80億円

製造

- 効率性向上とリスク低減のバランスを踏まえ、製造体制の再編を行う
- 継続的なコストダウン、品質マネジメントシステム取得範囲拡大により競争力を強化する

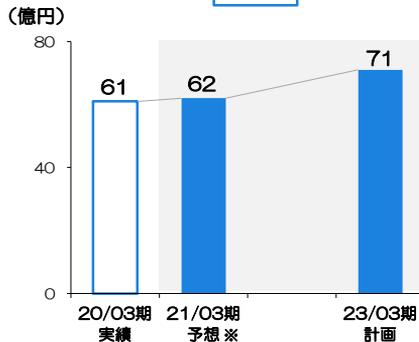
15

※ 21/03期予想は、新型コロナウイルス感染症関連によるマイナス影響を考慮

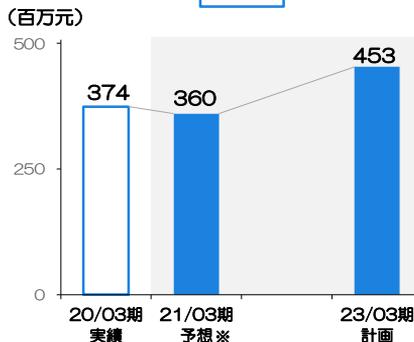


中期経営計画2022 ③ 研究用試薬事業の施策 その2 地域特性に応じたグローバル販売戦略による成長

日本



中国



- PCR製品によるBtoBビジネスへの展開
- シングルセル、微量核酸解析市場への販売強化

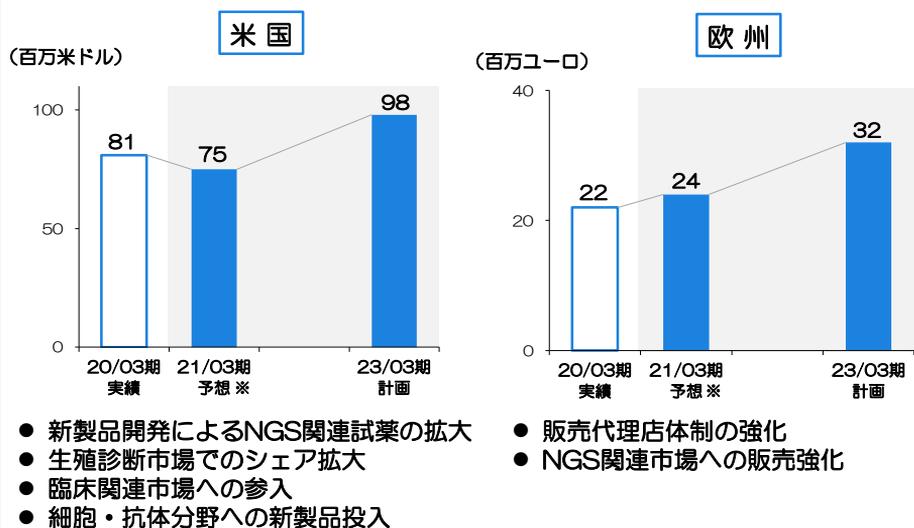
- 販売代理店体制の強化
- NGS関連市場への販売強化

16

※ 21/03期予想は、新型コロナウイルス感染症関連によるマイナス影響を考慮



中期経営計画2022 ④ 研究用試薬事業の施策 その3 地域特性に応じたグローバル販売戦略による成長

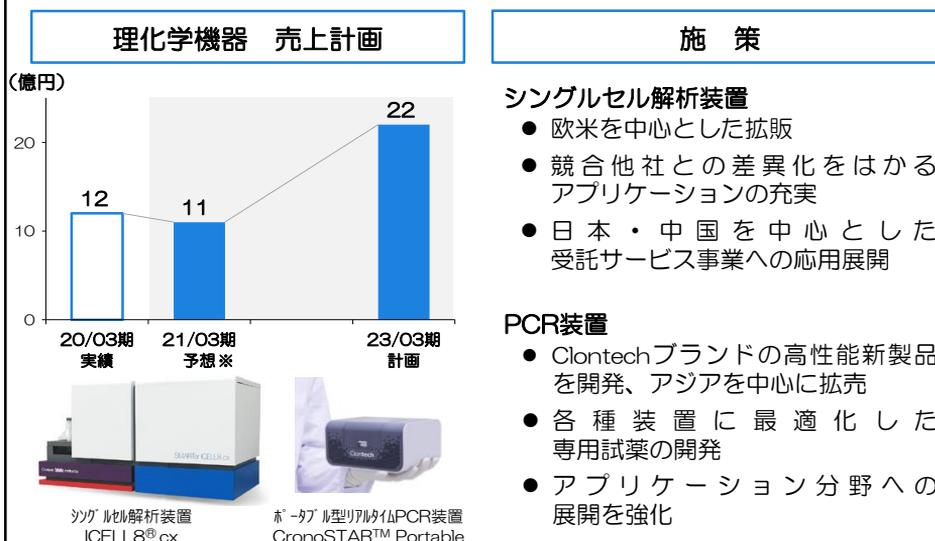


17

※ 21/03期予想は、新型コロナウイルス感染症関連によるマイナス影響を考慮



中期経営計画2022 ⑤ 理化学機器事業の施策 製造・研究開発体制を再編、システム化開発を加速



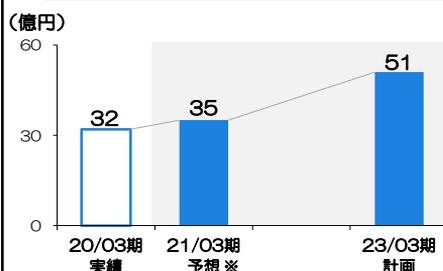
18

※ 21/03期予想は、新型コロナウイルス感染症関連によるマイナス影響を考慮



中期経営計画2022 ⑥ CDMO事業の施策 その1 拡充した製造施設の活用と技術開発の推進

再生医療等製品分野 売上計画



遺伝子・細胞プロセッシング センター2号棟
(2020年1月本格稼働)

施策

製造・技術開発

- 製造期間短縮を可能とする細胞調製法などの技術確立
- GMP/GCTP 製造管理体制のさらなる強化
- 各種ベクターの製造スケールアップの技術確立
- 検体管理システムの導入による品質試験の管理強化
- NGSによる品質試験法の確立

マーケティング・営業

- 海外の製薬企業などの新規顧客開拓
- アカテミアやハッチャー企業への開発初期段階からのアプローチ

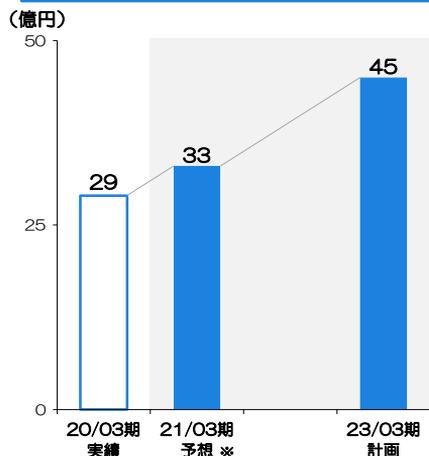
19

※ 21/03期予想は、新型コロナウイルス感染症関連によるマイナス影響を考慮



中期経営計画2022 ⑦ CDMO事業の施策 その2 遺伝子解析・検査受託の臨床関連分野への参入加速

遺伝子解析・検査分野 売上計画



施策

製造・技術開発

- 全ゲノム解析等の大規模受託体制の強化
- 自社技術・製品を活用したNGS関連新メニュー開発
- バイオフィマティクス解析体制の強化

マーケティング・営業

- 臨床関連市場への展開強化
- ゲノム解析に関連する国家プロジェクト等への積極的アプローチ
- 解析技術・解析プラットフォーム等の優位性を訴求したマーケティング戦略の強化

20

※ 21/03期予想は、新型コロナウイルス感染症関連によるマイナス影響を考慮



中期経営計画2022 ⑧ 創薬アライアンス事業 提携プロジェクトの着実な推進、海外提携活動へ注力

国内提携プロジェクトの着実な推進、上市後の製造供給体制強化

- TBI-1301 (NY-ESO-1・siTCR®)
滑膜肉腫対象の国内治験（第Ⅰ/Ⅱ相）において全症例投与完了、経過観察中。
2020年承認申請を計画。上市後の製造供給体制の強化を推進中。
適応拡大を検討中。
- TBI-1401 (C-REV)
膵臓がん対象の国内治験（第Ⅰ相）において全症例投与完了、経過観察中。
- TBI-1501 (CD19・CAR)
成人急性リンパ性白血病（ALL）対象の国内治験（第Ⅰ/Ⅱ相）が進行中。
適応拡大を検討中。

海外ライセンスアウト活動の強化

- 中国・Tasly Biopharmaceuticals に、TBI-1401 (C-REV) の
中国国内の開発・製造・販売権を独占的にライセンス。
- 各遺伝子治療プロジェクトについて、欧米およびアジア企業への
ライセンスアウト等の提携を目指した活動を引き続き強化する。

21



中期経営計画2022 ⑨ 新規臨床開発プロジェクトの推進 複数の遺伝子治療プロジェクトの開始を計画

体外遺伝子治療

- 既存のCARやTCRの技術的課題を解決するための基盤技術開発に注力
 - ・ 固形がん等を標的にできる新規受容体部位の開発・改良および
標的抗原の探索
 - ・ 新規シグナル伝達ドメインの選定および導入
 - ・ 細胞選択および細胞加工・培養技術等の高度化
- 2つの新規CAR-Tプロジェクトの企業治験を早期に開始する計画
 - ・ CEA-GITR・CAR-T（日本）
 - ・ CD19-JAK/STAT・CAR-T（カナダ）

体内遺伝子治療

- 有効性・安全性の高い新規ベクターの開発と、それらを活用した
新たな臨床開発プロジェクトの創出

22



本日の内容

- 20/03期通期業績
- 長期経営構想2025
- 中期経営計画2022
- 21/03期通期業績予想

23



21/03期 連結損益（予想）

(百万円)	21/03期 予想	前期比	
		増減	増減率
売上高	33,800	▲ 765	▲ 2.2%
売上原価	12,999	▲ 459	▲ 3.4%
売上総利益	20,800	▲ 305	▲ 1.4%
販売費及び 一般管理費	16,300	+1,469	+9.9%
営業利益	4,500	▲1,774	▲ 28.3%
経常利益	4,600	▲1,747	▲ 27.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,600	▲1,219	▲ 31.9%
研究開発費	4,814	945	24.4%

【業績予想の前提】

売上高・営業利益

- 新型コロナウイルス感染症拡大によるマイナス影響を業績予想に織り込んだ
- プラスの影響に関しては今後の状況を見極め、適時見直しをおこない公表する

研究開発費

- 将来の成長基盤構築のための積極的な研究開発投資は継続する

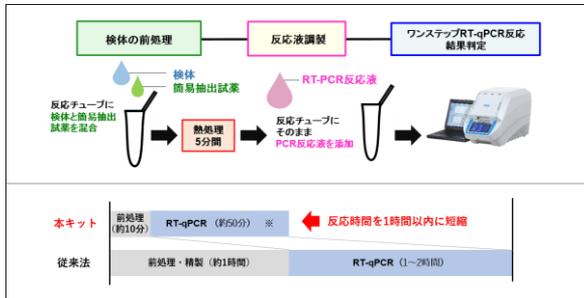
24



「SARS-CoV-2 Direct Detection RT-qPCR Kit」 の開発・販売

新型ダイレクトPCRキットの特徴

- RNA抽出・精製キットが不要な、ダイレクトタイプの検査試薬
- 簡便な操作で、検体前処理～PCR終了まで1時間以内
- 国立感染症研究所により検査データの精度確認・同ホームページに掲載
- 行政検査・公的医療保険適用対象
- 月産200万反応相当の製造・出荷体制を確保



25



新型コロナウイルスに対する予防用DNAワクチン 開発プロジェクトへの参画

- 大阪大学、アンジェス株式会社らのグループによる予防用DNAワクチンの開発に参画
- 遺伝子治療薬開発で培った技術・ノウハウ、保有設備を活用し、当社はDNAワクチンの構築・製造を担当
- 現在、前臨床試験用のDNAワクチンの製造を進めている

DNAワクチンの特徴

- ◆ 危険な病原体を一切使用せず、ウイルスの遺伝子情報をもとに製造するので、弱毒化ワクチンとは異なり病原性を全く持たず安全
- ◆ 大腸菌の培養により短期間に大量製造が可能
- ◆ ワクチンを接種した体内で生産された病原体タンパク質に対する免疫を誘導



動物実験用DNAワクチン
(大阪大学提供)

26



参考資料

- 20/03期 連結業績
- 21/03期 連結業績予想
- 20/03期 セグメント別売上高
- 21/03期 カテゴリー別売上高予想
- 20/03期 セグメント別業績
- 20/03期 研究用試薬の所在地別売上高
- 21/03期 研究用試薬の所在地別売上高予想
- 会社別業績（20/03期、21/03期予想）
- 為替レート（20/03期、21/03期予想）

20/03期 連結業績

(百万円)

	20/03 通期実績	前期比		前回予想比	
		増減	増減率	増減	増減率
売上高	34,565	▲ 1,275	▲ 3.6%	+265	+0.8%
売上原価	13,459	▲ 1,696	▲ 11.2%	+290	+2.2%
売上総利益	21,105	+420	+2.0%	▲25	▲0.1%
販売費及び 一般管理費	14,830	▲ 390	▲ 2.6%	▲ 100	▲ 0.7%
営業利益	6,274	+811	+14.8%	+74	+1.2%
経常利益	6,347	+682	+12.1%	+47	+0.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,819	+162	+4.4%	+119	+3.2%

【参考資料】

21/03期 連結業績予想

(百万円)

	21/03 通期予想	前期比	
		増減	増減率
売上高	33,800	▲ 765	▲ 2.2%
売上原価	12,999	▲ 459	▲ 3.4%
売上総利益	20,800	▲ 305	▲ 1.4%
販売費及び 一般管理費	16,300	+1,469	+9.9%
営業利益	4,500	▲ 1,774	▲ 28.3%
経常利益	4,600	▲ 1,747	▲ 27.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,600	▲ 1,219	▲ 31.9%

29

 TakaRa

【参考資料】

20/03期 セグメント別売上高

(百万円)

	20/03期 実績	前期比		前回予想比	
		増減	増減率	増減	増減率
バイオ産業支援	32,269	+693	+2.2%	+251	+0.8%
研究用試薬	24,434	+833	+3.5%	+76	+0.3%
理化学機器	1,242	▲ 1,328	▲ 51.7%	+77	+6.6%
受託	6,186	+1,232	+24.9%	+103	+1.7%
その他	405	▲ 43	▲ 9.8%	▲ 5	▲ 1.4%
遺伝子医療	2,295	▲ 147	▲ 6.0%	+14	+0.6%
その他*	-	▲ 1,822	-	0	-
売上高合計	34,565	▲ 1,275	▲ 3.6%	+265	+0.8%

30

*旧医食品バイオ

 TakaRa

【参考資料】

21/03期 カテゴリー別売上高予想

(百万円)

	20/03期 実績	21/03期 予想	前期比	
			増減	増減率
研究用試薬	24,840	23,788	▲1,051	▲4.2%
理化学機器	1,242	1,178	▲64	▲5.2%
受託	6,186	7,201	1,014	+16.4%
遺伝子医療	2,295	1,631	▲663	▲28.9%
売上高合計	34,565	33,800	▲765	▲2.2%

(注) 2021年3月期より単一セグメントへ変更します。また、前期のバイオ産業支援「その他」売上は、2021年3月期より「研究用試薬」に含めており、本表の20年3月期実績は、当該変更を反映して組替えています。

31



【参考資料】

20/03期 セグメント別損益

(百万円)

<20/03期 実績>	バイオ産業支援	遺伝子医療	医食品バイオ	共通	計
売上高	32,269	2,295	0	0	34,565
売上総利益	19,514	1,590	0	0	21,105
販売費及び一般管理費	11,766	810	0	2,254	14,830
内、研究開発費	2,947	744	0	177	3,869
営業利益	7,748	780	0	▲2,254	6,274

※2021年3月期より単一セグメントへ変更することにもない、セグメント別損益については、今回より記載を省略しております。

32



【参考資料】

20/03期 研究用試薬の所在地別売上高

(百万円)

	20/03期 実績	前期比	為替の影響 (前期比)	前期比 (為替影響除く)
米国	8,532	+302	▲111	+413
日本	6,076	+361	-	+361
中国	5,907	+437	▲352	+789
欧州	2,703	▲245	▲184	▲60
韓国	865	▲52	▲62	+10
インド	349	+29	▲15	+45
研究用試薬計	24,434	+833	▲726	+1,560

33



【参考資料】

21/03期 研究用試薬の所在地別売上高

(百万円)

	21/03期 予想	前期比	為替の影響 (前期比)	前期比 (為替影響除く)
米国	7,923	▲928	▲304	▲624
日本	6,274	+137	-	+137
中国	5,338	▲570	▲349	▲220
欧州	2,898	+180	▲71	+252
韓国	897	+22	▲57	+79
インド	455	+106	▲15	+121
研究用試薬計	23,788	▲1,051	▲798	▲253

34



【参考資料】

会社別業績（20/03期、21/03期予想）

（百万円）

	20/03期実績		21/03期予想	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
タカラバイオ（単体）	21,984	2,645	22,277	1,787
Takara Bio Europe連結	3,090	144	3,316	238
宝生物工程（大連）	3,477	1,062	4,087	1,409
宝日医生物技術（北京）	6,378	1,223	6,022	925
Takara Korea Biomedical	1,014	159	1,010	155
DSS Takara India Pvt. Ltd.	365	30	469	25
Takara Bio USA Inc.	11,221	1,625	10,175	360

35



【参考資料】

為替レート（20/03期、21/03期予想）

（単位：円）	19/03期 通期	20/03期 通期	20/03期 通期	21/03期 通期
	実績	前回予想	実績	予想
米ドル	110.45	109.03	109.03	105.00
ユーロ	130.35	122.03	122.03	119.00
人民元	16.71	15.77	15.77	14.80
100ウォン	10.04	9.36	9.36	8.80
インドルピー	1.62	1.55	1.55	1.50
スウェーデン クローナ	12.71	11.53	11.53	11.90

36



将来の見通しに関する注意事項

資料中の当社による現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

お問合せ先：事業管理部
E-mail: bio-ir@takara-bio.co.jp